

筑後入道の羽咋郡得田莊内を違亂するを停めて、得田章房に交付せしむ。

【得田文書】

六四二

得田加賀介章房申、得田庄内本知行分事、治田筑後入道依違亂不及、知行之由歎申之條、爲事實者甚不可然、所詮止彼妨、可被沙汰付章房候。縱雖有支申仁、更不可有許容候。恐々謹言。

七月十日

(吉見氏題)

源 在判

伊豫入道殿

【得田文書】

六四三

越後國小河庄上條之内番條公物之外、同下條之内野澤條之事、爲新所所宛行也。次能州還補之時、得田之内(田カ)な(筋カ)の谷里見奥跡之事、勘忍之條悅入候。最前可相計候。其旨可有存知候。穴賢々々。

永徳三

十一月十五日

(吉見氏題)

源 在判

得田加賀介殿

(第一通は年次不詳なりといへども、第二通に先行するものにして、亦同年のものなるべしと考へらる。)

十月二十日。宗頼、鳳至郡總持寺に、櫛比莊内保村の田地を寄進す。

【總持寺文書】 鳳至郡

六四四

寄附

能登國櫛比院庄内保村田地事

合貳段者

右彼田地者、爲天下安全武運長久、奉寄附物持禪寺所也。仍爲後日寄附狀如件。

永徳參年十月廿日

宗 頼 在判

弘和四年

甲子

元中元年

四月廿八日

永徳四年

改元

至徳元年

京都 紀元二〇四四  
二月廿七日 改元

七月十六日。長谷部正連、僧宗義の鳳至郡諸岡村の内を總持寺に寄進したることを承認す。

【總持寺文書】 鳳至郡

六四五

櫛比庄諸岡村内辻井上尾、宗義侍者總持寺寄進上者、不可有存細候。仍爲後日狀如件。

至徳元年七月十六日

遠江守正連 在判

九月二十日。幕府、近江延曆寺諸關所をして、山城臨川寺領加賀郡大野莊の年貢を勘過せしむ。

【臨川寺重書案文】 山城

六四六

臨川寺領加賀國大野庄年貢運送事、任貞和官符並延文繪旨御教書等之旨、無相違可被勘過也。若及異儀者、可有殊沙汰之狀、依仰執達如件。

至徳元年九月廿日

(折波義將)

左衛門佐 在判

山門諸關所

十一月三日。後小松院、山城寶幢寺領加賀郡倉月莊内松寺村・赤濱村の諸役を免除し給ふ。

【鹿王院文書】 山城

六四七

應因准傍例、免除伊勢太神宮役夫工米、日食米、造内裏御禊大嘗會以下勅役、院役、都鄙寺社所役、及國中段米關米、凡恒例臨時公役等、永爲當寺領、加賀國倉月庄内松寺・赤濱兩村、播磨國安田庄、備前國長田庄、土左國吾河・山内・小坂村地頭職等事。

右得彼寺衆僧等去月日奏狀稱、謹考案内、當寺者多聞天王現居士、地藏菩薩化高僧、相語曰、今之將軍、福祿官位如意滿足、建立寺院、增長壽命云々。驚靈夢之告作、希夷之想、即致華構、蓋此蘭若也。寺額寶幢表薩埵之感應、山稱覺雄集慈芻之碩才。准后左相閣下經營之、智覺普明國師草創之。綉棟畫梁、絢祭嵐山之下、廣堂畫閣、壯麗天壤之間。轉大法輪、度衆生界。壯嚴日寶、劍飛而掃妖怪之氣、開堂時瑞華紛而下相公之前。當寺奇特、後代美談者哉。於焉常住之資緣、領知之庄園。永被止伊勢太神宮役夫工米并勅院事、國役、諸社神人、國司守護使入勘、官使、檢非違使、院宮諸司、甲乙人亂入、望請洪慈、因准先例、早賜件役